

言 寸

レイセオンシステムズサポートカンパニー
レイセオンジャパン社長
永井 澄生



入会に際しましてのご挨拶

この度RTXの一社でありますレイセオンは、日本航空宇宙工業会の賛助会員に加えていただきました。加入に際しまして様々な労をお取りくださった皆様に、この場をお借りして御礼申し上げますとともに、会員各社の皆様、そして本誌の読者の皆様にご挨拶申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、RTXと申しまして読者の皆様には未だなじみの薄い社名であるかもしれません。2020年にレイセオンとユナイテッド・テクノロジーズが合併して以来、「レイセオン・テクノロジーズ」と名乗ってまいりましたが、昨年7月より「RTX」として再出発致しました。主として迎撃システム、極超音速兵器、宇宙システム、各種ミサイル、ミサイル防衛、最新のセンサー及びレーダー等の分野をけん引する弊社「レイセオン」と、民間・軍用ともに航空機の構成システムや通信・航法器材等を取り扱う「コリンズ・エアロスペース」、同様に民間・軍用ガスタービン・エンジンを主に担う「プラット&ホイットニー」という三社による構成となっております。これまでは展示会等がございましたが、昨年9月に開催されました防衛装備庁様主催のインダストリー・デイや、2024国際航空宇宙展におきましては日本で初めてRTXとして合同のブースを出展させていただきました。

これまでも、陸上自衛隊様の地対空ミサイル「ホーク」、航空自衛隊様の「パトリオット」と「F-15戦闘機用レーダー」並びに海上自衛隊様

の艦艇用ミサイル「ESSMブロックⅠ」と「SM-3ブロックⅡA」といった多くの重要防衛装備品を共同生産、もしくは一部共同開発してきた弊社ですが、今年になって更に米海軍の7艦種に搭載される「SPY-6」の構成品を三菱電機様に供給頂く契約を締結したほか、米国のF-15戦闘機用レーダーの修理委託へ向けた動きも進んでおります。

また、日米安全保障協議委員会（いわゆる「2+2」）においても日米防衛産業協力・取得・維持整備定期協議（DICAS）の枠組み促進が確認され、グローバル・サプライ・チェーンの構築に向けて、日米双方の企業の共同した取り組みが今後ますます活発化することが予想されます。これは不安定な世界情勢並びに緊迫度を増す東アジアの戦略環境下において、日米両国の同盟関係の更なる実効性確保に産業レベルにおいても大きく寄与するとともに、両国の防衛産業にとって互恵的な発展をもたらすものでありと確信しております。

弊社東京支社はこれまで同様、お客様に対して質が高くかつ最先端の技術を用いた製品や優れた運用実績のあるシステムをご紹介・ご提供しつつ、国内企業各社様と良好な関係を構築・維持して参りたいと思っております。

改めまして、本会正会員、賛助会員の各社様におかれましては、より密接なお付き合いをさせていただけますよう、また、ご指導・ご鞭撻を賜れますようよろしくお願い申し上げます。